

募集の対象・表彰の種類

東日本大震災などの災害から、都市との交流を通じて復興を目指す取組も表彰の対象となります。

オーライ!ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組。
個人でも団体でも応募できます。団体は法人格の有無を問いません。

- グランプリ** (内閣総理大臣賞・申請予定) 1件 副賞 20万円相当
- オーライ!ニッポン大賞** 審査委員長賞 5件程度 副賞 3万円相当
- 3件程度 副賞 5万円相当

3つの部門 (部門を重複して応募できます)

<h4>学生・若者カテゴリー部門</h4> <p>主に30代までの若者の活躍により推進されている活動。</p> 	<h4>都市の子カラ部門</h4> <p>主に都市側からの働きかけによって推進されている活動。</p> 	<h4>農山漁村イキキ実践部門</h4> <p>主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動。</p> 
---	---	---

オーライ!ニッポン大賞は、都市と農山漁村の交流の取組すべてが対象です。様々な分野からの応募をお待ちしています。たとえば、グリーン・ツーリズム、企業・大学等の社会貢献、コミュニティ活動、2地域居住や定住の促進、起業と雇用(農山漁村民宿・レストラン等)、環境保全(棚田や里山・里海など)、教育(体験型教育旅行、キャリア教育、環境教育等)、農工商連携、伝統文化や食文化の発掘・保全・活用、医療福祉との連携、等々。

オーライ!ニッポン ライフスタイル賞

Uターンにより都市部から移住するなどして、農山漁村地域で魅力的なライフスタイルを実践している個人。

- たとえば・・・
- 交流イベントや古民家活用等を通じて、移住者や交流人口の増加に貢献している人。
 - 農山漁村の地域資源を活かして起業(民宿、レストラン、体験ビジネスなど)している人。

等 3件程度 副賞 3万円相当



オーライ!ニッポン (都市と農山漁村の共生・対流)とは?

都市(まち)と農山漁村(むら)の往来(おうらい)を活発にすることで、日本の元気(All right)をめざす国民運動です。「共生」は都市と農山漁村が共に支え合う様を、「対流」は相互の交流が絶え間なく繰り返される様を、表現しています。

募集要領と応募用紙

「オーライ!ニッポン会議」のホームページ (<http://www.kouryu.or.jp/ohrai/>) からダウンロードできます。インターネットに接続できない方には、ファックスまたは郵送でお送りしますので、事務局までご依頼ください。

応募先 お問合せ **オーライ!ニッポン大賞事務局**
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45
神田金子ビル5階 まちむら交流きこう内
Tel03-4335-1985 Fax03-5256-5211
<http://www.kouryu.or.jp/ohrai/> e-mail:ohrai@kouryu.or.jp

募集中

締切延長

平成25年9月9日(月)締切



第11回 オーライ!ニッポン大賞

「都市と農山漁村の共生・対流」の優れた取組を表彰します



オーライ!ニッポン会議はまちとむらの往来を応援します



養老孟司 代表
(東京大学名誉教授)



平野啓子 副代表
(語り部・かたりすと)



安田喜恵 副代表
(東北大学大学院教授)

主催：オーライ!ニッポン会議(都市と農山漁村の共生・対流推進会議)、農林水産省
協賛：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構
後援(予定)：総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、
一般社団法人日本経済団体連合会、全国知事会、全国市長会、全国町村会

「オーライ!ニッポン会議」の事務局を構成する22団体
(一財)地域活性化センター (公社)全日本郷土芸能協会 (公財)伝統文化活性化国民協会 (財)日本青年館 (公財)日本修学旅行協会
(公財)全国修学旅行研究協会 (財)育てる会 (公財)パブリックヘルスリサーチセンター (公社)日本青年会議所 日本商工会議所
全国商工会連合会 (一財)伝統的工芸品産業振興協会 (公社)日本観光振興協会 (一財)地域開発研究所 (公財)日本離島センター
(公財)都市計画協会 (公社)日本環境教育フォーラム (一財)農村開発企画委員会 全国水土里ネット(全国土地改良事業団体連合会)
全国森林組合連合会 (一財)漁港漁場漁村総合研究所 (一財)都市農山漁村交流活性化機構

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組を表彰

グランプリ
(内閣総理大臣賞)
震災復興・地域支援
サークル ReRoots
(宮城県仙台市)
学生・若者かつやく部門



県有数の農業地帯である仙台市若林区東部で、被災農家の生活再建に不可欠な農地とコミュニティの再生に取り組む。東日本大震災の甚大な津波被害から「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、避難所で一緒だった学生や住民を中心に設立。スタッフの9割を大学生が担い、全国から延べ20,000人のボランティアを受け入れ（H25年2月現在）。畑に埋もれたガレキを、農業機械を痛めないように手作業で除去。復興に向けては作付支援、農業機械貸出、市民農園やスタッフ自ら野菜づくりを行う農園の開設、復旧させた畑で農家が作った野菜を販売する店舗「りるまあと」などに取り組んでいる。



千葉市教育委員会 (千葉県千葉市) **都市のチカラ部門**
千葉市では、全ての小学校の6年生を対象に「農山村留学推進事業」を実施している。農山村を訪問し、宿泊を伴う共同生活や、自然と農林業等の体験を通じて、他人を思いやる心や社会性、自主性、創造性など「生きる力」を育む。平成24年度は、長野県の17市町村20地区で4泊5日のプログラムを実施し、23校1,181名の児童が参加。千葉県の2市でも5校376名が3泊4日で実施した。平成13年度からの12年間で、参加児童は長野県だけで累計約1万人に達した。毎年、教育効果を数値によって考察している。

NPO法人戸田塩の会 (静岡県沼津市) **農山漁村イキイキ実践部門**
「戸田塩」は、駿河湾沖から海水をくみ上げ、薪だけを燃料に約15時間、炊き続けて採る。地元的女性有志が、何度も失敗を重ねながら製法を確立した。美しい駿河湾を守るため、海岸の定期清掃に加え、薪には間伐材も利用し、塩の販売収益の一部を森づくりに寄付する。子どもたちに、食や環境の大切さと地域の誇りを伝えたいと考え、体験学習も積極的に受入。県外の教育旅行、JICAの研修、一般旅行者等も受け入れている。紙芝居で塩づくり工程の説明を受け、海岸で薪にする流木を拾い、窯から塩の結晶を取り出す作業を体験できる。



(株)巡の環 (鳥根県海士町) **学生・若者かつやく部門**
海士町は隠岐諸島の中ノ島に位置する1島1町の町。平成20年、当時20代の3名の1ターン者が会社を設立。「島をまるごと持続可能なモデルにする」という島の取組を手伝いながら、島をその学びの場にする学校を作りたいとして活動開始。企業向け研修プログラム「海士五感塾」は、島民との触れあいを通じて企業が抱える課題の本質に気づけたと好評。島外の海士ファンとのつながりを深める為、東京や京都など全国で「AMAカフェ」を開催。これまでの巡の環の歩み、想いを綴った「僕たちは島で、未来をみることにした」を、木楽舎より出版。

審査委員長賞

NPO法人シニア人財倶楽部 (福島県いわき市) **都市のチカラ部門**



市内の中山間地域の遊休農地を借りて、都市部在住のシニア世代の参加を得て、野菜や米を生産し、都市部の団地に暮らす「買い物難民」や、東日本大震災の被災者の仮設住宅で移動販売。風評払拭のため各種イベントに積極参加。

ふくしまキッズ実行委員会 (福島県飯沼川村) **農山漁村イキイキ実践部門**



学校の長期休暇に、福島の子もたちを全国の受入先へ派遣して、様々な体験や人々との交流等を通じた教育活動を実施。子どもたちは、放射能の不安から解放され、屋外の活動を思いっきり楽しみ、子どもらしい笑顔と元気を取り戻している。

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト (東京都中央区) **都市のチカラ部門**



銀座のビルの屋上でミツバチを飼育。とれたハチミツは、銀座のパティシエや百貨店等と連携して様々な商品を開発。全国の環境に配慮した農業を推進する地域とも交流。福島を中心とする被災地を、復興イベントや商流づくりで支援。

摂南大学ボランティア・スタッフズ (大阪府寝屋川市) **学生・若者かつやく部門**



過疎化が進む和歌山県すさみ町で様々な貢献活動を実施。町主催イベントへのスタッフ派遣、廃校舎を利用した「忍者キャンプ」の開催、伝統行事「柱松祭り」の継承、高齢者の困りごとを解決する「なんでもやろう隊」等。

NPO法人土佐の森・救援隊 (高知県日高村) **農山漁村イキイキ実践部門**



森林ボランティアを林業の入口に位置付け、参入しやすい林業を提案。参加者には、地元協力で地場産品等と交換できる地域通貨「モリ券」を発行。「土佐の森」方式は、全国から関心を集め、約35地区に導入されている。

過去のグランプリ受賞者

- 第1回(平成15年度) 長野県飯田市
- 第2回(平成16年度) 兵庫県八千代町(現・多可町)
- 第3回(平成17年度) 青森県南部町
- 第4回(平成18年度) NPO法人体験観光ネットワーク松浦党、松浦体験型旅行協議会(長崎県松浦市)(現・(一社)まつうら党交流公社)
- 第5回(平成19年度) 幡多広域観光協議会(高知県四万十市)
- 第6回(平成20年度) NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会(長崎県小値賀町)
- 第7回(平成21年度) 大地の芸術祭実行委員会(新潟県十日町市・津南町)
- 第8回(平成22年度) ふるさと体験学習協会(岩手県久慈市)
- 第9回(平成23年度) (財)新治農村公園公社(群馬県みなかみ町)(現・(一財)みなかみ農村公園公社)

オーライ！ニッポン ライフスタイル賞 農山漁村で魅力的なライフスタイルを実践する個人を表彰。



海藤節生さん
(宮城県七ヶ宿町)

「ハウンド・ドッグ」の初代ベジスト。仙台市を含む7市10町の「水源地」である七ヶ宿町に移住し、体験型の環境啓発活動「山がっこ」、小・中・高等学校と連携した体験学習、東日本大震災の被災地支援等に精力的に携わる。



手嶋真二さん
(山口県下関市)

定年後、故郷に戻り、実家の隣にログハウスと、約2,000坪のオープンガーデンを独力で整備し、交流の場として開放。地域内外からの訪問者との交流を楽しみながら、田舎暮らしの魅力を発信する。(平成24年の来訪者数は1,009人)